

(ネットショップのための)

■■ ホームページ制作テクニック ■■

- * 信頼感の持てるサイトであること
- * 訪問者に使いやすいサイトであること
- * 豊富で役に立つ情報が網羅されていること

(上記目的達成のための Web サイト制作上の留意点)

1. 第一印象を左右する <トップページ>
2. 使いやすい <ナビゲーション>
3. 操作性やデザイン考えた <コンテンツ>



情報リテラシー研究会

§ 1. 第一印象を左右するトップページ

トップページはいうまでもなく、サイトの顔であり、表玄関です。

一般的に訪問者は、まずトップページを見てそのサイトに見るべき情報が内蔵されているかどうかを判断しようとします。トップページの出来が悪い(説明が不足している、誘導が分かりにくい、バランスが悪くて読みづらいなど)と、どんなに次ページ以降の中身が良かったとしても、結局は先へは進んでもらえないこととなります。

(ここでは、インターネット上でよく見かける好ましくないサイトの事例を研究することで、望まれるサイトについて考えて見たいと思います。)

■ 訪問者にとって好ましくないページ ■

【スプラッシュページの弊害】

Flashなどのスプラッシュページは、ユーザビリティの面から特に必要がなければ、出来るだけ使用しないようにします。

スプラッシュページとは

メニューなどの情報を置かず、Flashなどを使った大画面のアニメーションだけが表示される、Webサイトのトップページ。実質的なトップページはこの次のページとなる。

一時期、企業のWebサイトなどで流行したが、見せることに意味のあるアニメーションは少なく、単にかっこよさを強調したいだけ、といった事例がほとんどだった。

多くの場合、Webサイトの訪問者にとっては、必要な情報に到達するために余計なステップを踏まなければならない、単なる自己満足の邪魔なページである。 [Hitachi IT用語辞典より]

【ページのレイアウトが崩れている】

制作の際、技術的に問題があったりするとレイアウトが崩れたりします。

【ページを開いたとたん音楽が鳴り出す】

よほど趣味のページでも無い限り音は鳴らさないようにしましょう。訪問者は情報収集を目的にそのページを訪問しておりますので、大半の訪問者に不快感を与えます。

【ページが重たい】

不要な画像貼り付けは極力さげ、貼り付ける場合は可能な限り容量を少なくします。

【機種依存文字の使用】

機種依存文字を使うと文字化けを起こすことがあります。

機種依存文字とは

ある特定のコンピュータやワープロの機種だけで使われる文字を機種依存文字という。このため、多数の環境が混在しているインターネット上では機種依存文字を使うことはできません。丸付き数字や単位記号、ローマ数字、半角カタカナ、「囀」「楸」「𪛗」などを一文字にまとめた文字などは、機種依存文字としてよく知られています。

【広告の小ウィンドウが立ち上がる】

広告用の小ウィンドウを勝手に表示されたりすると、訪問者に大変嫌がられます。

【ページ配色が見づらい】

背景色や文字色の(明度・彩度)が高い、背景色と文字の色が似ている、全体が暗すぎる、全体が明るすぎる等など、見づらい画面にならないよう気をつけます。

【タイトルの文言が不適當】

検索エンジンがまずチェックする個所は、ホームページのタイトルです。タイトルにキーワードが入っていれば、ヒットする確立はそれだけ高くなります。又「お気に入り」へ登録する際は、タイトルの文言で登録されますので、リピーターの確保にも役立つこととなります。

そのサイトのテーマが十分連想できるような語句を研究し、タイトルとして設定します。

【テロップが流れる】

流れるテロップ(流れる文字など)、訪問者にとって不要なものは設置しないようにします。

【訪問者にお願いをするサイト】

例えば「ここをクリックして下さい」とか「お気に入りにどうぞ」などと、訪問者へのお願い事が多いと敬遠されてしまいます。

【工事中と表示されるサイト】

工事中が多すぎると訪問者はそのサイトから逃げていきます。表示するのであれば、いつ頃完成するかを表記しておきます。

【Cookie 機能を使って訪問回数が表示される】

ネットショップにおいて Cookie は必要な機能ですが、Cookie を利用して不用意にユーザーの訪問回数を表示したりすると、ユーザーにとっては自分がサイトから監視されているような、嫌な感情を与えかねません。Cookie はユーザーの利便性の向上のためにあります。

Cookie とは

Web サーバーが利用者を識別するために Web ブラウザに送る情報。ブラウザのキャッシュエリアにファイルとして保存される。たとえばオンラインショッピングのように、商品をいくつか選択して最後に支払い手続きを行なうような場合、各セッションセッション(データのやり取り)でサーバー側が利用者を識別している必要がある。このような場合、サーバーはブラウザに Cookie を送り、ブラウザはセッションの度にサーバーに Cookie を送り返すことでサーバーが利用者を識別する。Cookie の内容はサーバー側で設定できるため、プライバシーを重視する利用者には敬遠されることがある。

[アスキーデジタル用語辞典より]

【連絡先が書いてない】

サイト開設者の連絡先が書かれていないとそれだけ信用を失します。又、訪問者に不親切な印象を与えます。折角リピーターになってくれるかもしれない人を、取り逃がすことにもなりますので、必ず掲載するようにします。掲載する場合は、単に OE へのリンクだけでなく連絡先のメールアドレスも記載するようにします。訪問者によっては OE とは別のメーラーを使っていたり、又携帯電話を使ってメールする場合があります。



§ 2. 訪問者に分かり易いナビゲーション

リンクの張り方

リンクはホームページにとって必要不可欠な要素です。しかし、リンクの張り方が悪いと、訪問者に戸惑いを与えてしまいます。サイト内ナビゲーションツールとしてのリンクの張り方について研究しましょう。

現在位置を分かりやすく

検索でたどり着いたページがトップページとは限りません。トップページ以外にたどり着いてしまった訪問者が迷子にならないように、自分のサイト名を最初に教えてあげます。

そのためには、「全てのページにサイト名を記しておく」又はそのサイトだと言うことがハッキリ判る「ロゴを常時掲出しておく」ことが必要となります。

行き止まりのページ

開いたページに全くリンクが付いていない！ サイトの行き止まりのページ（トップページへも他のページへも戻れない）を時々見かけます。このような場合はしかたがないので、ブラウザの「戻る」ボタンを使って一つずつ戻ったり、新たにトップページを開き直したりすることとなり、不親切なページと言えます。トップページへのリンクと、直前に見ていたページへのリンクは必要でしょう。

行き先を分かりやすく

Back & **戻る**

- ・一つ上の階層に戻るのか？
- ・直前に見ていたページへ戻るのか？

Top & **トップ**

- ・そのページの先頭に戻るのか？
- ・Web サイトのトップページに戻るのか？

そのサイトの全体構造をよく知っている人であれば、これらのリンクがどんな意味合いで使用されているか判りますが、大概の人はどちらの意味か判断が付かず、戸惑ってしまいます。「〇〇へ戻る」などと、言葉を少し付け加えて分かりやすくナビゲートすると親切なページになります。

リンクを張るのに相手の許可は必要か？

他サイトとのリンクに関する注意書きに「リンクフリー」と書かれたものもあれば、「無断リンクお断り」などと書かれたサイトもあります。ホームページにおけるリンクはどのように考えれば良いのでしょうか？ WWW はハイパーテキストによって成立しているものであり、リンクはオープンなもの（リンクを張るのは自由である）というのが本来の姿と言えます。

しかし、不要なトラブルを避けるため「無断リンクお断り」等と何の表示も無い場合でも、他のサイトにリンクを張る場合は、一言そのサイト管理者に断ってからそのサイトにリンクを張るのがベターでしょう。

新しいウィンドウで開く

リンクをするときに、新しいウィンドウを開くよう設定することができます。

(そのページの補足をするとき、元の情報を参照しやすい)などの利点がありますが、使い過ぎない程度に利用します。

フレーム使用の是非

本来はホームページを使いやすくするためのフレームが、現在では Web ユーザビリティの面からあまり推奨されていないのが一般的な意見です。そのわけは（読み込みが重い、検索エンジンに不利、プリントアウトが不便）等の理由からです。

真に必要なサイト以外、フレームの利用は良く考えた方がいいでしょう。

※ フレームページ【印刷】の場合

フレームのページを印刷しようとする、そのままでは片方のみが印刷されてしまうケースが多くあります。そのため、ユーザーに対して印刷のオプションで「表示された通りに印刷する」を選択してもらわなければなりません。



入力フォームについて

ショッピングカートやお問い合わせ、アンケートなどでは欠かせない入力フォームですが、使いづらいものも多く見受けられます。フォームの入力項目は、最小限度必要なものだけにとどめるなど、分かり易いフォームを考えましょう。

Flash の使用について

Flash を使うと動きを持たせることが出来るため、表現力は増します。しかし、アニメーションやゲームといった分野では、Flash を使うメリットは大きいでしょうが、一般のサイトではいろいろ問題もあると考えられます。

これを使うと動きを持たせることが出来るため、表現力が増すことが出来ます。しかし(Flash はプラグインであること、検索エンジンには引っかけられないということ、更新作業が煩わしい) などといったデメリットもあります。特にナビゲーションに Flash を使うことは、アクセシビリティ及びユーザビリティという観点から、注意しなければならないでしょう。

プラグインとは

コンピュータ（パソコン）に組み込まれている既存のソフトウェアに、新たな機能を組み込む働きをするソフトウェアのこと。プラグインを組み込むことで、アプリケーションソフトが標準以外の元々は組み込まれていない機能や、拡張された機能などが利用できるようにすること。

[マイクロソフト単語帳より]



§ 3. 操作性やデザインを考えたコンテンツ

ホームページのコンテンツは、豊富で役に立つ情報がいっぱい詰まっていることが一番ですが、その情報を読んでもらうには Web ページの操作性やデザインも、研究しなければなりません。

文字色と背景色

Web サイトを作る際の非常に重要なものに文字と背景のバランスがあります。文字と背景の良し悪しによって、ページの読みやすさが決まると言っても過言ではありません。例えば、文字と背景色を薄めの色にした場合、柔らかな雰囲気を出すことは出来ますが、読みづらいページになります。又これをモノクロで印刷した場合、バックも文字もグレイで大変見づらくなります。ページを印刷する場合のことも、考えておかなければなりません。

バックを黒色などの濃い色にして文字を明るい薄色にした場合、コントラストがはっきりして一見読みやすいようにも見えますが、見ているうちに目が疲れてきます。そして、標準の色のままリンクを設定した場合、リンクも見づらくなります。インク代の節約のためモノクロ印刷した場合も、バックが黒色だと大量に黒色のインクを使うことになってしまいます。

背景画像を使う場合

背景画像を使う場合は特に注意が必要です。背景画像は、ページに彩りを添えるためのものですが、これが目立ちすぎて、わずらわしさを感じさせることがあります。

又、一般的に文字色は背景画像に合わせて設定します。しかし、閲覧者のパソコンで「画像を読み込まない」設定にしている場合は、(背景画像が濃い色のときは薄い文字色を使いますから) デフォルトの背景色(白色又は灰色)に溶け込んでしまい、文字がよく見えなくなります。したがって背景画像を使う場合は、それに近い背景色を設定しておくことも必要です。

動きのあるページについて

動きをつけたページは確かに人目を引きませんが、時には大変見づらいページになってしまいます。訪問者は情報を得るためにそのサイトを訪れたのであって、特殊なサイトを除けば、楽しみに来たものではありません。アニメーション画像や動く文字など、それが Web サイト全体に相当な効果を上げられると思われる以外は、必要最小限に留めるほうがベターでしょう。

アニメーションはその分ページも重くなり、作るのにも手間がかかります。下手をするとダサイページになってしまいます。テクニックを弄するあまり「動きをつけることが、本当に必要なのか?」という観点を見失わないようにしなければなりません。

文字についてもしかりです。動く文字は基本的には見にくいのです。一部の文字が動いているが故に、本文を読むのに集中が出来なくなります。まして音声ブラウザでは、動いている文字は読み上げてくれません。動きをつけることで注意を引こうとしているのが、逆効果になってしまうこともあります。

すっきりしたテキストの配置

改行しなくてもいい位置で改行していたり、文章全体がセンタリングされているなど、読みづらいページを見かけます。コンテンツの中でテキストは中心的な位置を占めます。中身はもちろんのこと見た目にも読みやすい様に配慮することが肝心です。

閲覧者の環境は（1024×768の解像度、800×640の解像度）などと様々で、結果がどのように見えるか？ 制作の時点で（プレビューでブラウザの大きさをいろいろと変更してみる）と良いでしょう。

又、文字がぎっしりとブラウザの横幅一杯に表示されていると長文を読むのは結構大変です。テキスト中心の読み物系コンテンツの場合、文章の横幅を少なめにしたり、行間を見やすい間隔で空けたりなどの工夫を考えます。

テーブル(表)の利用

テーブルは本来の表を表示するため以外にも、レイアウトをするために多く使用されます。文章をセンタリングしたい場合などにも「テーブル」の機能を使ったりします。

しかし、テーブルの使い方には注意も必要です。1ページを丸ごと1つのテーブルにおさめたりすると、Web サイトにアクセスした際、読み込みに時間がかかり何も表示されない状態がしばらく続いて、いきなりデータの表示が始まるなどということもあります。

テーブルの表示は、テーブル全体のデータが読み込まれてしまわないと、表示が始まりません。すなわち、ページが表示されるまでに時間がかかると言うことです。複雑なテーブルだったり、テーブル中の画像サイズが大きい場合はなおさらのことです。

これを解決するためには、テーブルを切り分けたり、レイアウトに影響がない部分はテーブルの中に入れない、などの工夫が必要です。

画像の alt 属性について

WWW は視覚に頼る部分が大きく、特に視覚障害者に対しては Web アクセシビリティの面を考慮しておかなければなりません。最近では、Web アクセシビリティへの関心も高まり、画像には「alt 属性」をつけることが一般的な常識として推奨されております。

画像に alt 属性をつけることで、視覚に障害のある方でも、音声ベースで情報を得ることが出来ます。又、画像を非表示にしている方の場合でも、画像の説明テキストを読んで判断することが出来ます。的確な文言で「alt 属性」をつけることが望まれます。

印刷について

ホームページを閲覧していると、印刷して手元に残しておきたいようなページも多いと思います。又、サイト側としても訪問者が入力した「登録内容」など、出来るだけ印刷物として残しておいてもらいたい場合があります。このような場合は、そのページだけを別ページにしたりなどの工夫をします。

Web ライティングの重要性

企業ホームページにおける説明文などの文章は、ユーザーに対するセールストークの役割を果たすものです。 わかりやすく、そしてサイトのコンセプトに合致した文章を書くことで、問い合わせや購入をうながすなど、ユーザーの意志決定に対して効果的に働きかけることができます。



